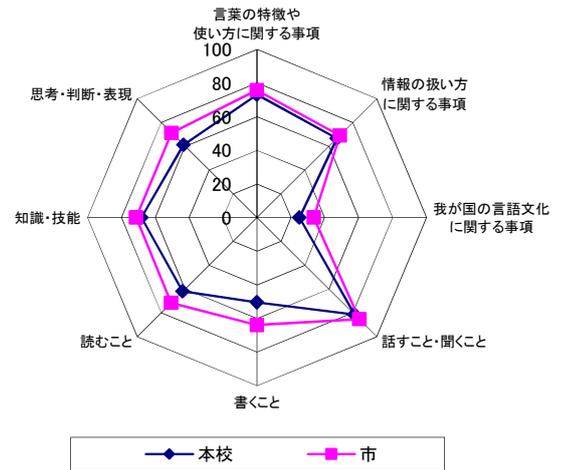


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.1	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	66.7	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	25.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	81.5	85.5	86.5
	書くこと	50.5	63.9	65.8
	読むこと	62.0	71.6	69.5
観点別	知識・技能	68.2	71.3	72.9
	思考・判断・表現	61.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

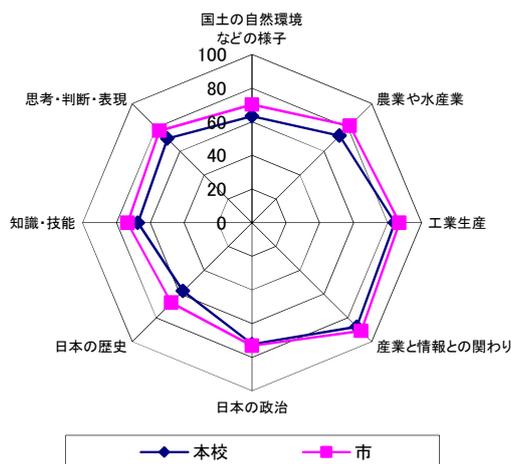
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は73.1%で、市平均を2.7ポイント下回った。 ○第5学年、6学年に担当されている漢字の読み書きについての設問は、6問中4問は市平均を上回った。 ●三字の熟語の成り立ちについての設問では、正答率が市の平均を14.4ポイント下回った。	・漢字の読み書きについては、確実に定着を図るようになるために、授業中に小テストを繰り返し行ったり、家庭学習でドリル等を活用して取り組んだり、スモールステップの学習を継続していく。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化する。また、教科書に出てくる言葉を一つ一つ活用できるようになるまで、授業で取り扱う時間を増やしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は66.7%で、市平均を2.4ポイント下回った。 ●「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているか」についての設問では、正答率が市の平均を2.4ポイント下回った。	・情報活用能力を高めていけるように、複数の文章を並行して読ませる活動や、複数の文章の情報を整理する活動を増やしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は25.0%で、市平均を8.5ポイント下回った。 ●和語、漢語、外来語といった語句の由来についての設問では、正答率が市平均を8.5ポイント下回った。	・語句の由来や意味などについて、国語辞典や漢字辞典を活用して調べ、理解を深めていくとともに、和語、漢語、外来語に分類する練習問題に取り組みさせるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は81.5%で、市平均を4ポイント下回った。 ○「意図に応じて、質問を工夫しているか」についての設問では、正答率が市平均を2.4ポイント上回った。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているか」についての設問では、正答率が市平均を11.5ポイント下回った。	・学級活動での話合いの他にも意図的に話し合う時間を設け、話し手の意図を考えながら発表内容をまとめる体験を重ねたり、司会者の様子を見て学んだりできるような活動を多く取り入れる。 ・ペア学習やグループ活動で互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は50.5%で、市平均を13.4ポイント下回った。 ●書くことの設問では、すべての問題で市平均を下回った。 ●「目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にしている」についての設問では、正答率が市平均を22.8ポイント下回った。	・書く学習の際は、「構想」の時間を十分に確保し、思考ツール等を用いて自分の考えを可視化・整理する指導をする。 ・短文で「主張と根拠」をセットにする練習を日常的に取り入れ、論理的な文章の型を定着させる。 ・書いた文章を互いに読み合い、書き手の意図が読み手に正しく伝わっているかを確認する言語活動を充実させる。
読むこと	平均正答率は62.0%で、市平均を9.6ポイント下回った。 ●物語や説明文の内容を読み取る設問では、すべての問題で市平均を下回った。 ●「叙述を基に文章の内容を捉えている」についての設問では、正答率が市平均を22.8ポイント下回った。	・物語文や説明文などの文章を自分の力で読み取り、全体の内容を捉える力を高めるために、読書習慣を付ける取り組みや読書量を増やす取り組みを強化する。 ・様々な種類の文章を読む機会を意図的に設定する。 ・物語や説明文の内容を読み取り、要旨を書く活動を充実させる。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.3	70.3	66.4
	農業や水産業	73.1	81.6	75.3
	工業生産	84.3	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	87.5	91.0	81.3
	日本の政治	72.2	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	57.6	67.4	68.5
	知識・技能	67.4	73.5	72.5
	思考・判断・表現	70.7	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

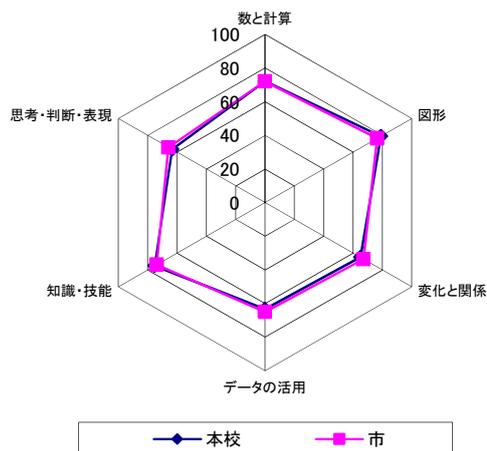
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	領域の平均正答率は63.3%で、市平均より7.0ポイント低い。 ○人工林の役割についての設問は、市平均よりも8.9ポイント上回っている。 ●赤道についての設問は、市平均よりも20.6ポイント下回っている。	・資料集や地図帳などの各種資料を積極的に活用したり、重要なキーワードや概念をノートにまとめたり、友達と説明し合ったりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	領域の平均正答率は73.1%で、市平均より8.5ポイント低い。 ○魚の出荷作業における工夫について資料をもとに判断する設問は、市平均よりも2.3ポイント上回っている。 ●品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現する設問は、市平均よりも24.6ポイント下回っている。	・普段の授業の中で、資料から読み取れることを自分なりに解釈する機会をつくるようにする。 ・習得した知識について、資料を活用して表現できるように、地図やグラフなど複数の資料を読み取る機会をつくるようにする。
工業生産	領域の平均正答率は84.3%で、市平均より2.7ポイント低い。 ●安全性の高い自動車づくりについて資料をもとに表現する設問は、市平均よりも5.8ポイント下回っている。	・資料のなかで注目すべき点を取り上げ、資料の適切な見方を理解できるようにする。
産業と情報との関わり	領域の平均正答率は87.5%で、市平均より3.5ポイント低い。 ●情報を生かした産業についての設問では、市の平均よりも4.2ポイント下回っている。	・学習課題に対し、教科書などを活用して調べ、自分の考えをまとめるようにする。また、本文を活用して表現する活動を取り入れることで語彙力を高められるようにする。
日本の政治	領域の平均正答率は72.2%で、市平均より1.0ポイントやや低い。 ○租税についての理解を問われる設問では、市平均よりも8.0ポイント上回っている。 ●法律ができるまでの流れについて、資料を読み取る設問では、市平均よりも12.0ポイント下回っている。	・租税教室等での学びが活かされていると考えられるので、今後も、様々な場面での学習を大切に取り扱っていく。 ・学習で得た知識や考え方を他の教科と結び付けたり、新聞記事やニュース映像などを取り上げ、政治と日常生活のつながりに気付かせたりすることで、学習の定着を図れるようにする。
日本の歴史	領域の平均正答率は57.6%で、市平均より9.8ポイント低い。 ○中大兄皇子が行ったことについての設問では、市の平均よりも10.3ポイント上回っている。 ●能についての設問では、市の平均よりも17.7ポイント下回っている。	・学年で身に付けるべき知識を明確にし、児童が知識の確実な習得を図れるようにする。 ・各時代の主な出来事や特色、人物について、教科書や資料集などを用いて、自分なりにまとめる活動を通して理解を深められるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.2	72.1	74.6
	図形	79.0	76.5	76.1
	変化と関係	65.0	67.1	59.7
	データの活用	63.3	65.0	64.5
観点別	知識・技能	75.1	73.8	74.7
	思考・判断・表現	63.3	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

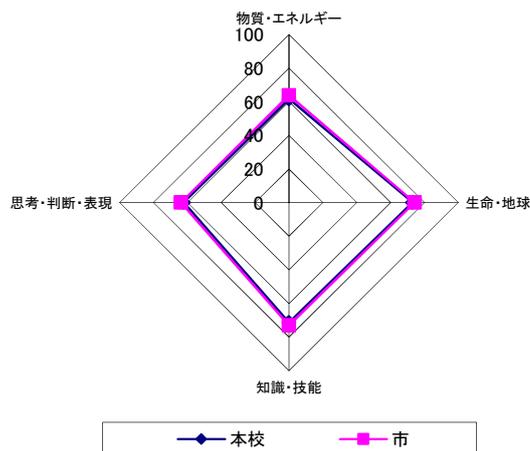
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、72.2%で、市平均とほぼ同じであった。</p> <p>○真分数÷整数(約分1回)の計算では、正答率が市平均を8.8ポイント上回った。</p> <p>●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問では、正答率が市平均より11.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公式や計算手順を暗記させるのではなく、未知の数量を文字に置き換えて立式し、その式が何を表しているのかという「式の意味」を深く理解させる指導に重点を置く。 ・計算領域で得られた自信を土台として、図や表を活用して変数間の関係性を視覚的に整理する活動を積極的に取り入れる。
図形	<p>平均正答率は79.9%で、市平均を2.5ポイント上回った。</p> <p>○平行四辺形の面積を求める設問では、正答率が市平均を10.9ポイント上回った。</p> <p>●線対称な図形の対応する点を求める設問では、正答率が市平均を6.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・方眼紙や透明なシートを活用して実際に図形を折り重ねる操作活動を改めて取り入れ、対応する点同士を結ぶ直線が対称の軸とどのように交わるかを視覚的・体験的に理解させる。 ・ICT機器を用いた動的な図形の提示を積極的に取り入れ、図形が変化しても変わらない不変の性質(対応する点の間隔など)に気づかせる場面を増やす。
変化と関係	<p>平均正答率は65.0%で、市平均を2.1ポイント下回った。</p> <p>○速さと時間から道のりを求める設問では、正答率が市平均を1.6ポイント上回った。</p> <p>●単位量あたりの大きさを求めて、どちらのセットの方が1冊あたりの値段が安いのかを説明する設問では、正答率が市平均を5.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「1単位あたりの数値を出す」という計算手続きの習得に留まらず、その数値が何を意味し、比較の際にどのような役割を果たすのかを深く理解させることに重点を置く。その際、数直線や図を活用して数量の関係を視覚的に整理し、立式の根拠を数学的な言葉で説明する場面を意図的に設定する。 ・記述力の向上に向けては、「まず(計算による根拠)」「次に(比較の結果)」「だから(結論)」といった論理の型を提示し、自分の考えを構造化して書く訓練を繰り返す。
データの活用	<p>平均正答率は63.3%で、市平均を1.7ポイント下回った。</p> <p>○円グラフを正しく読み取る設問では、正答率が市平均を7.2ポイント上回った。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する設問では、正答率が市平均を4.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単一の代表値(平均値)のみでデータ全体を判断するのではなく、度数分布表やヒストグラムを活用して「データの偏り」や「階級ごとの度数」に着目させる活動に重点を置く。 ・記述力の向上に向けては、図から読み取った事実とそこから導き出される解釈を分けて整理する指導をする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.7	63.8	61.6
	生命・地球	72.9	74.1	73.3
観点別	知識・技能	71.3	73.0	71.3
	思考・判断・表現	62.2	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市平均より2.1ポイント下回っている。</p> <p>○6年の学習内容「物の燃え方」では、「酸素の補修法を指摘できるか問う設問」において、市平均よりも7.2ポイント上回っている。</p> <p>○5年の学習内容「電流のはたらき」では、「2つの実験の結果のちがいがから、電磁石の力の強さを変える要因を指摘できるか問う設問」において、市平均よりも8.2ポイント上回っている。</p> <p>●6年の学習内容「水よう液の性質」では、「蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には、気体が溶けていることを理解しているか問う設問」において、市平均よりも20.0ポイント下回っている。</p> <p>●5年の学習内容「ふりこのきまり」では、「ふりこの周期を理解し、実験の結果を推測する設問」において、市平均よりも16.0ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な前学年までの学習内容を復習したり、当該学年で学習する内容と関わりのある前学年までの既習事項を想起させたりして、学習内容の定着を図る。 仮説を立てて、実験方法を考える活動を重視していく。 表やグラフ、観察したことなどの結果を見る目を育て、実験や観察の結果からどんなことが分かるのか、どのように考えられるのかを自分の言葉で説明したり書いたりして考察する力が身に付くような学習活動をこれからも続けていく。
生命・地球	<p>平均正答率は、市平均より1.2ポイントやや下回っている。</p> <p>○6年の学習内容「月と太陽」では、「月の見える形が変わる理由を理解しているか問う設問」において、市平均よりも9.8ポイント上回っている。</p> <p>○5年の学習内容「流れる水のはたらき」では、「流れる水のはたらきについて、目的の結果を得るための実験の方法を構想し、説明する設問」において、市平均より9.5ポイント上回っている。</p> <p>●6年の学習内容「動物のからだのつくりとはたらき」では、「心臓と血液のはたらきを理解しているか問う設問」において、市平均よりも25.5ポイント下回っている。</p> <p>●5年の学習内容「流れる水のはたらき」では、「流れる水のはたらきについて、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を推測する設問」において、市平均よりも20.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仮説を立てて、実験の方法を考え、どのような結果が得られると思うのかを話し合う時間を意識して設定する。 表やグラフ、観察したことなどの結果の見方や、結果からどんなことが分かるのか、どのように考えられるのかを自分の言葉で説明したり書いたりして考察する力が身に付くような学習活動をこれからも続けていく。 「動物のからだのつくりとはたらき」のように、実際に観察したり、実験したりすることが難しい学習内容は、人体模型を使ったり、動画を利用したりして、視覚的に分かりやすく理解できるように授業を工夫し、確実な理解の定着を図る。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実	全学級で、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話合い活動を多く取り入れ、表現力や思考力が身に付くように指導している。	全教科「思考・判断・表現」の観点で、平均正答率が市平均より下回った。国語では、市平均より10ポイント下回った。
言語活動の質的向上	昨年度に引き続き、毎週火曜日の朝の学習の時間を言葉の時間と設定し、各学年で発達段階や実態に合わせて、語彙力・書く力を高めるための取組を行っている。また、授業では、振り返りの時間を確保し、文章で表すことを習慣化させた。	国語では、「書くこと」の領域で平均正答率が、市平均より大きく下回った。記述式の設定では、ほぼ市平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習と生活に関するアンケートの結果から、全学年で「勉強はすきですか」の設定で、肯定割合が市平均を下回った。6年生の学力テストの結果からは、算数の「知識・技能」の観点以外で平均正答率が市平均を下まわり、基礎学力不足が課題として見受けられる。学習に対する苦手意識が全学年共通の課題となっていることから、まずは「わかる・できる」という実感を持たせ、学習への苦手意識を取り除いていきたい。

また、学習内容を日常生活や既習事項と結びつけ、学ぶことの有用性を実感させる場面を設定することで、「解いてみたい」という自発的な意欲を喚起し、受け身の学習から脱却を図りたいと考える。

全学年における学習肯定感の向上と、確かな基礎学力の定着を目指したい。